

赤痢菌について

赤痢は、経口感染する急性腸炎です。世界的にまん延していて、日本でも発展途上国からの帰国者などから患者が多く発生しています。

赤痢菌に感染する動物は、主に人や一部の霊長類であり、食品や器物等を介して人から人へ経口的に感染するので、国内で発生することも少なくありません。保育園や学校、福祉施設、宿泊施設などでは、人と人の接触が多いため集団発生になることがあります。



【感染経路】

感染力が極めて強く、少量の菌でも感染するこの菌は、便とともに排出されるので、感染者の手指や食品がほんの少し汚染されていても、口から体の中に入ることによって感染します(経口感染)。

感染経路のひとつとして食品がありますが、直接手指が触れる食品群（にぎり寿司等）から感染することが高く、さらに、生水の摂取による感染や、乳幼児がおもちゃ等を口に含んだりすることによる物品からの感染も報告されています。

【症状】

潜伏時間は1～7日(多くは4日以内)で、症状は大腸炎(粘膜の出血性化膿炎)、発熱、下痢、おう吐、腹痛、しぶり腹、膿・粘血便等です。

【予防方法】

トイレの後や食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。衛生状態の悪い地域では、生水、氷、生野菜、カットフルーツなど加熱されていない食品を喫食しないようにしましょう。

※ 赤痢菌に関する詳しい情報は、保健医療局のホームページ等をご覧ください。

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/shigellosis/>